

令和5年度 杉並区立堀之内小学校経営計画

杉並区の教育ビジョン2022

みんなのしあわせを創る杉並の教育

「社会に開かれた教育課程」及び「杉並区教育ビジョン2022」を具現化するために、学校・保護者・地域が一体となって連携・協働し、心身共に健康で主体的に生きる児童の育成、及びみんなのしあわせを創る杉並の教育の具現化を図ります。

堀之内小学校の教育目標

◎自ら考える子ども ○たくましい子ども ○心ゆたかな子ども

互いを尊重し、支え合いながら

主体的で豊かな学びを創造する子が育つ学校

すべての基本としたいこと

【子供の思いからはじめる】

子どもの思いを大切にし、思いを形にすることを通して、子どもの主体性を伸ばします。

【どう学んだのかを大切に】

結果だけではなく、取組の過程での子どもの学びや成長を価値付け、大切にします。

【あたたかい人間関係を築く】 キーワード 学級経営

違いを認め、他者を尊重し、思いやりの心を大切にします。

【あいさつがあふれる学校に】

他者意識を高め、互いの存在を認め、コミュニケーションの最初の一步となるよう**大人も子どもも**自ら進んであいさつを交わし合います。

学校として、変わってはいけないこと、変わらなくてはいけないことをしっかり見極め、

進化し続けながら、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の具現化のために、

豊かな学びを創造する学校づくりを進めていきます。

★a f t e r コロナを見据えた新しい学校生活

・従来の方法にこだわらず、子どもたちとともに新たな取組や工夫を考えながら、全ての子が学校生活を楽しみと感じられるよう努めていきます。

☆学校目標を達成するための基本方針と手だて

(1) 自ら考える子ども ～主体的で豊かな学びをする子～

【自ら考える子どもの姿】

◎自ら問いや課題をもち、個人で、または仲間と協働しながら探究や課題の解決に見通しをもって粘り強く取り組む子ども。

○興味・関心のあること、疑問に思ったこと、もっと知りたいことを自ら進んで探究する子ども。

【そのために】

○何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるかを明確にする。

- ・個での学びの時間を大切にしつつ、仲間と協働しかかわり合う中で多様な考えにふれ、さらに学びを深められるようにします。

○教師が一方向的に教える授業から、**子どもが学ぶ授業への転換の推進**

- ・**先回りより後追いの指導**を意識し、これまでの指導観・授業観からの転換を一層進めます。
- ・子どもが自己決定、自己選択できる場面や機会を増やします。
※まず選択肢からはじめる ノート、プリント・・・
みんな一緒からマイスタート・マイゴールへ
- ・子どもの**対話力**を高める工夫をします。 **キーワード 教え合いの見直し**
※教え合い、話し合いから「対話」へステップアップします。
※子ども同士で互いに**理由や根拠を明らかにしながら対話**できる子へ。
- ・主体的な学びを支える教師の役割を考え、個々の学びの過程をていねいに見取り、適切に評価し、子ども一人ひとりへの効果的な指導や助言をします。

○ICTの**日常的な活用**による豊かな学びの実現

- ・ICTの活用によって、興味や関心に応じた学びや学び残しの状況や個々の課題に応じた学びを推進します。
- ・タブレットを使う場面の**自己選択**も認めながら日常的な活用を推進します。
- ・思考を支えるツール、考えを共有するツールとして、さらには意見を交流し、協働的な学びを進めるためのツールとして有効活用をし、深い学び、対話的な学びを推進します。
- ・A Iドリルなどの活用を通して、学校での取組を家庭でもできるようにし、スタディ・ログなども活用しながら、個々の学びの状況に応じた指導・助言を行い、個々の学力をさらに伸ばします。

○カリキュラムマネジメントの推進 **キーワード 出前授業の活用・充実**

- ・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえ**教科横断的に**進めます。
- ・教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源などを地域等の外部資源を効果的に活用します。出前授業などの機会を計画的に設け、**専門家、プロから学ぶ取組を充実**させます。
- ・教育内容の質の向上に向けて・・・P D C Aサイクルを実践します。

○小中一貫教育の推進

- ・互いの授業を見合い、その後の意見交流などを通して相互理解を一層深めていきます。
- ・学校や地域の行事での協働を小中関係各校との連携を更に深めると共に、各教科の系統性の重視や学びの連続性を確保し、義務教育9年間を見通した学びを進めます。

○幼保小連携の推進

- ・スタートカリキュラムを充実させ、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を一層推進します。

(2) 心ゆたかな子ども ～やさしさと思いやりの心の醸成～

【心ゆたかな子どもの姿】

- ◎自分から進んで気持ちのよいあいさつができる子ども。
- 偏見や差別の心をなくし、誰にでも誰とでも同じように接することができる子ども。
- 人・もの・自然とのふれあいを通して、自他のかけがえのない命の大切さを考え、他を思いやり、他を尊重できる子ども。

【そのために】 キーワード 学級経営

○あいさつを通して他者意識を高める

- ・他者意識を高め、互いの存在を認め、コミュニケーションの最初の一步となるよう大人も子どもも自ら進んであいさつを交わし合います。

○「対話」と「協働」を意識した取り組みの推進

- ・温かい人間関係を築くために様々な場面で「対話」と「協働」を意識した取組を進め、多様性を受け入れ、自他の違いを認め、個性を尊重し合える子どもが育つ教育を進めます。

○一人ひとりを大切にする

- ・特別支援教育を推進も含め、偏見や差別の心をなくし、一人ひとりの個性を尊重する学校風土を築きます。

○生命尊重の意識を高める

- 屋上プロジェクトでの自然との関わり、理科・生活科での飼育・栽培活動、高齢者施設との交流、特別の教科_道徳での学び、など様々な取組を通して、生命の不思議さにふれ、その重さを考え、自他の命を大切にする心を育てます。

○道徳の時間の充実

- ・自己の生き方を考え、自己の生き方の指針をもてる子が育つ道徳教育を進めます。
- ・道徳の時間を軸として、道徳性を養いながら友達を大切にして力を合わせて活動できる子が育ち、いじめなどのない思いやりあふれる学校づくりを進めます。

○自他を大切にする教育の推進

- ・人権尊重の理念の下、いじめ・不登校0をめざし、自分も他の人も大切にできる子が育つ取組を進めます。

(3) たくましい子ども ～心と体の健康の増進～

【たくましい子どもの姿】

- ◎体を動かすことの楽しさを実感し、**運動を習慣化**しようとする子ども。
- 自らの健康に関心をもち、食事や睡眠などの生活習慣と健康な体との関係や心と体の関係などを考える子ども

【そのために】

○運動の日常化

- ・毎月の**体力向上週間**での**取組**を通して、体を動かすことの楽しさを味わわせ、運動への意識を高めます。
- ・運動委員会児童の活動などを通して**運動の日常化**につながる運動遊びの紹介などの新たなチャレンジを進めます。

○体育科の授業の充実

- ・週3回ある体育科の授業を貴重な運動の機会と捉えて、授業の工夫と改善を進めます。
- ・十分な**運動量**を確保し、友達と協力し合いながら運動をする楽しさを十分に味わわせながら、運動の大切さや運動し続けることの大切さを学ばせていきます。

○オリンピック・パラリンピックのレガシー

- ・グローバル社会に対応できる豊かな国際感覚を養う教育を進めます。
- ・パラ種目などへの理解を深め、多様性を尊重する心が育つ取組を進めます。
- ・運動への興味・関心を高めるためアスリートとの交流などを進めていきます。

○健康教育を充実させます

- ・給食の時間や家庭科、体育科(保健)の学びとリンクさせた食育、健康教育の充実を進めていきます。

○心の健康を大切にします

- ・教師と子供、また子ども同士が良好な関係を築き、悩みや困ったことなど一人で抱え込まず、**誰にでも話せる学校づくり**を進めます。
- ・SCなどと連携し、様々な子供の悩みなどへ対応できる相談体制を整えます。

(4) 家庭・地域とともに歩む

- ◎家庭・地域・学校のつながりを重視し、共に教育を考え、協働して教育を進めていきます。

【そのために】

○家庭・地域に開かれた学校づくり 学校公開の機会を広げる

- ・情報発信の工夫と情報の共有を図りながら、地域に開かれた学校、家庭・地域と信頼関係で結びついた学校、家庭・地域と協働し地域とともに歩む学校づくりを進めます。
- ・学校が地域の人と人をつなぐハブになるよう、コミュニケーションを図っていきます。

○地域を生かした教育・地域との協働の推進

- ・地域の人々、施設、自然や文化との関わり合いを大切に、地域の教育力を生かした学習活動の工夫を進めます。**(地域の人、場所を教室にする学びの推進)**
- ・学校運営協議会、学校支援本部との連携を一層充実させ、子ども達が安全に安心して通える学校づくりを進めます。

○家庭・地域への発信

- ・共に教育を創るために、家庭・地域への情報発信・情報の共有を積極的に行っていきます。
- ・Forms、Share Point 等の新たなアプリの活用の推進

(5) カのある教師が育つ学校

◎教師自身が心も体も健康で、学び続け、進化し続けます。

【そのために】

○子ども達一人ひとりの居場所がある学級づくり(学年・専科)

- ・安心して学校生活を送れる学級を、子ども達と一緒につくっていきます。

○授業イメージの転換

- ・教師も子どもも授業イメージの転換を図り、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びを具現化します。
- ・子ども達の主体的な学びを進め、確かな学力を保証するため、教材研究の充実に努めます。
- ・校内研究にとどまらず、内外の研究会、研修会から学び、指導力の向上に取り組みます。
- ・現状に甘んじることなく、常に学ぼうとする姿勢をもち続け、様々な機会を生かして、教師自らが互いに学び合います。

○プロとして

- ・教師の**話術**を磨きます。**(話は短く、指示は明確・的確に)**
- ・子どもをよく見て、よく話を聞いて、児童理解に努めます。
- ・**「見逃さない」「見落とさない」指導**を心がけます。
- ・いじめや不登校の早期発見、未然防止のために子どもの小さな変化も見逃しません。

○教師の心と体も健康に

- ・ワーク・ライフ・バランスに**配慮**し、組織を生かした取り組みにより個人の負担を軽減するなど働き方改革の推進を図り、教師自身が子ども達の前でいつも心も体も健康でいられる環境を整えます。